



W コマンド

この章のコマンドは、Cisco MDS 9000 ファミリのマルチレイヤディレクタおよびファブリック スイッチに対応しています。ここでは、コマンドモードに関係なく、すべてのコマンドがアルファベット順に記載されています。各コマンドの適切なモードを確認するには、「コマンドモード」を参照してください。詳細については、『*Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide*』を参照してください。

write command-id

Storage Area Network (SAN; ストレージエリア ネットワーク) チューナー拡張 N ポートの SCSI 書き込みコマンドを設定するには、**write command-id** コマンドを使用します。

```
write command-id cmd-id target pwwn transfer-size bytes [outstanding-ios value [continuous |
num-transactions number]]
```

シンタックスの説明

| | |
|--------------------------------|---|
| <i>cmd-id</i> | コマンド ID を指定します。有効範囲は 0 ～ 2147483647 です。 |
| target <i>pwwn</i> | ターゲット ポート World Wide Name (WWN) を指定します。名前のフォーマットは、 <i>hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh</i> です。 |
| transfer-size <i>bytes</i> | 転送サイズを 512 バイトの倍数で指定します。有効範囲は 512 ～ 8388608 です。 |
| outstanding-ios <i>value</i> | 未決定の I/O 数を指定します。有効範囲は 1 ～ 1024 です。 |
| continuous | コマンドの継続的な実行を指定します。 |
| num-transactions <i>number</i> | トランザクション回数を指定します。有効範囲は 1 ～ 2147483647 です。 |

デフォルト

未決定 I/O のデフォルトは 1 です。

コマンド モード

SAN 拡張 N ポート コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------|-----------------|
| 2.0(x) | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

進行中の SCSI 書き込みコマンドを停止するには、**stop** コマンドを使用します。

例

次に、継続的な SCSI 書き込みコマンドを設定する例を示します。

```
switch# san-ext-tuner
switch(san-ext)# nwwn 10:00:00:00:00:00:00:00
switch(san-ext)# nport pwwn 12:00:00:00:00:00:00:56 vsan 13 interface gigabitethernet
1/2
switch(san-ext-nport)# write command-id 100 target 22:22:22:22:22:22:22:22
transfer-size 512000 outstanding-ios 2 continuous
```

関連コマンド

| コマンド | 説明 |
|--------------------|--|
| nport pwwn | SAN 拡張チューナー N ポートを設定します。 |
| san-ext-tuner | SAN 拡張チューナー機能をイネーブルにします。 |
| show san-ext-tuner | SAN 拡張チューナー情報を表示します。 |
| stop | SAN 拡張チューナー N ポートで進行中の SCSI コマンドを取り消します。 |

write-accelerator

Fibre Channel over IP (FCIP) インターフェイスの書き込み高速化およびテープ高速化をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **write-accelerator** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにする、またはデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

write-accelerator [**tape-accelerator** [**flow-control-butter-size** *bytes*]]

no write-accelerator [**tape-accelerator** [**flow-control-butter-size**]]

シンタックスの説明

| | |
|--|----------------------|
| tape-accelerator | テープ高速化をイネーブルにします。 |
| flow-control-butter-size <i>bytes</i> | フロー制御バッファ サイズを指定します。 |

デフォルト

ディセーブル

デフォルトのフロー制御バッファ サイズは 256 バイトです。

コマンドモード

コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------|--|
| 1.3(1) | このコマンドが導入されました。 |
| 2.0(x) | tape-accelerator および flow-control-buffer-size オプションが追加されました。 |

使用上のガイドライン

デフォルトでは、書き込み高速化機能はディセーブルで、FCIP リンクの両端でイネーブルにする必要があります。FCIP トンネルの一方でのみイネーブルの場合、トンネルは初期化されません。

Cisco MDS SAN-OS Release 3.x では、FCIP トンネルの両端で SAN-OS Release 3.x が動作している場合に **write-accelerator** コマンドが読み取り高速化をイネーブルにします。

FCIP トンネルの片側で SAN-OS Release 3.x が動作していて、反対側で SAN-OS Release 2.x が動作している場合、**write-accelerator** コマンドは書き込み高速化のみをイネーブルにします。



ヒント

FCIP ポートがポートチャネルの一部であったり、イニシエータとターゲット ポートの中に複数のパスがある場合、FCIP テープ高速化は機能しません。そのような設定では、SCSI ディスカバリ障害が発生したり、書き込みまたは読み取り操作が中断したりする可能性があります。

例

次のコマンドは、指定した FCIP インターフェイスで書き込み高速化をイネーブルにします。

```
switch# config terminal
switch(config)# interface fcip 51
switch(config-if)# write-accelerator
```

次のコマンドは、指定した FCIP インターフェイスで書き込み高速化およびテープ高速化をイネーブルにします。

```
switch# config terminal
switch(config)# interface fcip 51
switch(config-if)# write-accelerator tape-accelerator
```

次のコマンドは、指定した FCIP インターフェイスでテープ高速化をディセーブルにします。

```
switch# config terminal
switch(config)# interface fcip 51
switch(config-if)# no write-accelerator tape-acceleration
```

次のコマンドは、指定した FCIP インターフェイスで書き込み高速化およびテープ高速化の両方をディセーブルにします。

```
switch# config terminal
switch(config)# interface fcip 51
switch(config-if)# no write-accelerator
```

関連コマンド

| コマンド | 説明 |
|----------------------------|--------------------------------------|
| show interface fcip | 指定した FCIP インターフェイスのインターフェイス設定を表示します。 |

write erase

スタートアップ コンフィギュレーションを消去するには、EXEC モードプロンプトから **write erase** コマンドを入力します。

```
write erase [boot | debug]
```

| シンタックスの説明 | パラメータ | 説明 |
|-----------|--------------|----------------------------|
| | boot | ブート コンフィギュレーションを削除します。 |
| | debug | 既存のデバッグ コンフィギュレーションを削除します。 |

デフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------|-----------------|
| | 1.0(2) | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドを実行すると、スイッチのスタートアップ コンフィギュレーションが工場出荷時のデフォルトの状態に戻ります。実行コンフィギュレーションに影響はありません。**write erase** コマンドは起動時の設定を、ローダ機能に影響する設定以外、すべて削除します。

write erase boot コマンドは、ローダ機能に影響する設定のみを削除します。ローダ機能コンフィギュレーションには、ブート変数と **mgmt0 IP** コンフィギュレーション情報 (IP アドレス、ネットマスク、デフォルト ゲートウェイ) が含まれています。

例 次に、既存のスタートアップ コンフィギュレーションを完全に削除する例を示します。

```
switch# write erase
```

次に、ローダ機能コンフィギュレーションを完全に削除する例を示します。

```
switch# write erase boot
This command will erase the boot variables and the ip configuration of interface mgmt 0
```

wwn secondary-mac

セカンダリ MAC (メディア アクセス制御) アドレスを割り当てるには、**wwn secondary-mac** コマンドを使用します。

```
wwn secondary-mac wwn-id range address-range
```

| シンタックスの説明 | secondary-mac wwn-id | セカンダリ MAC アドレスのフォーマットは、hh:hh:hh:hh:hh:hh です。 |
|-----------|----------------------|--|
| | range address-range | 指定した World Wide Name (WWN) の範囲。有効値は 64 のみです。 |

コマンドモード EXEC モード

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------|-----------------|
| | 1.0(2) | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは元に戻せません。

Worldwide Name への変更は、必要な場合のみ実行します。これは毎日変更されるものではありません。これらの変更は、管理者が行うか、スイッチ操作を熟知している人が行ってください。

詳細については、『Cisco MDS 9000 Family CLI Configuration Guide』を参照してください。

例 次に、MAC アドレスのセカンダリの範囲を割り当てる方法を示します。

```
switch(config)# wwnm secondary-mac 00:99:55:77:55:55 range 64
This command CANNOT be undone.
Please enter the BASE MAC ADDRESS again: 00:99:55:77:55:55
Please enter the mac address RANGE again: 64
From now on WWN allocation would be based on new MACs.
Are you sure? (yes/no) no
You entered: no. Secondary MAC NOT programmed
```

wwn vsan

インターオペラビリティ モード 4 がイネーブルの一時停止 VSAN（仮想 SAN）の WWN を設定するには、コンフィギュレーション モードで **wwn vsan** コマンドを使用します。設定を無効にするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
wwn vsan vsan-id vsan-wwn wwn
```

```
no wwn vsan vsan-id vsan-wwn wwn
```

| シンタックスの説明 | |
|---------------------|---|
| vsan-id | VSAN（仮想 SAN）ID を指定します。有効範囲は 1 ～ 4093 です。 |
| vsan-wwn wwn | VSAN の WWN を指定します。フォーマットは hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh:hh です。 |

デフォルト なし

コマンド モード コンフィギュレーション サブモード

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------|-----------------|
| | 3.0(1) | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは、次の条件が満たされた場合にのみ続けることができます。

- VSAN が一時停止していなければいけません。
- スイッチ WWN を指定できるようになる前に、VSAN でインターオペラビリティ モード 4 がイネーブルである必要があります。
- スイッチ WWN はファブリック全体で一意でなければいけません。
- 設定されたスイッチ WWN には McData OUT [08:00:88] が必要です。

例 次に、WWN を VSAN に割り当てる例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# wwn vsan 100 vsan-wwn 20:64:08:00:88:0d:5f:81
WWN can be configured for vsan in suspended state only
switch(config)# vsan database
switch(config-vsan-db)# vsan 100 suspend
switch(config-vsan-db)# exit
switch(config)# wwn vsan 100 vsan-wwn 20:64:08:00:88:0d:5f:81
switch(config)#
```

| 関連コマンド | コマンド | 説明 |
|--------|----------------------|---|
| | vsan database | 同じ物理インフラストラクチャを共有している複数のファブリックを作成し、ポートを VSAN に割り当て、インターオペラビリティ モードをオンまたはオフにし、ロード バランスを送信元の交換ごとまたは src-dest ID 別に行います。 |

